
日常は条件だらけ。

松野朝華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日常は条件だらけ。

【Nコード】

N5525D

【作者名】

松野朝華

【あらすじ】

2008年、主人公は社会人となって幼いころの卒業した小学校のタイムカプセルをあける行事に参加をする。いじめ・暴力・別れを体験してきた彼女が今年になって初めて自分の夢を手に入れました。

プロローグに条件。

今年、私は20歳になりました。

普通に高校を卒業して、知り合いの会社に入社して、
ごたごたもあるけど、充実しているとは思えない。

…とはいいつつも、それでもこの生活はあたしは好きだ。

そんなことを考えながらも、私は中央小学校の門を、
昔のころよりも大きくなった手で引いて、昔の旧友達たちがあつま
る予定である

小学校のすぐ恥にある、小さくなった飼育小屋の下にある
タイムカプセルがある場所に足を踏み入れた。

「ミコトー！久しぶりだね。」

「あ！ミナっち！久々だね！！！」

しばし下を見ていた私に話をかけてきた、ショートカットで
笑顔が似合う人があたしを呼んだ。

その笑顔は小学校のときに仲がよかったミナコちゃん
8年ぶりの再会だった。

そう、8年…

幼くして、両親が離婚して・・・お母さんが再婚をした。

その相手も悪いやつで、今でもあたしはその人がした行為を
思い出せない。(それは嫌がつているから…?)

母がその義父が買ってきた指輪、そして

新しく家族になった、ゴールデンレトリバーの子犬。
でも、

でも…、いつから全てが狂いはじめてきたのでしょうか？

これがフィクションだと思われるかもしれませんが。

でも、これが、私にあった、人生の幕開けでもあったのです。
いじめて、いじめられて、からかわれて。

全てがいやになったこともあるのでしょうか

それを全て乗り越えてきた私がこの2008年1月に自分の
本当の願いを知りました。

そして、今もある「家庭の問題」を、あなたはどう思いますか？

ただ、平凡な暮らしを求めているのに…
そう思うでしょうか。

平凡とは、幸せになるよりも高いハードルだったのだと
知っていた…でも、願わずにはいられないのです。

プロローグに条件。(後書き)

どうも、はじめまして。

このたびはこんな小説を読んでくださいます
ありがとうございます。

こんなあたしも20歳になり、立派(?)な社会人になりましたが、
まだまだ未熟者。

そんなあたしが体験した20年のお話です。

若干のフィクション(前置き)がありますがそれでも
自分が体験した記憶を綴っています。

タイムカプセル、幼いころはどうおもって埋められたのでしょうか
?

崩壊の条件

1988年、昭和の最後でもある8月に私が生まれました。そして、翌年は妹の：ミキも誕生し・私に妹ができたのです。

母は、根っから強い人でした。行動力もあって、母から聞いた話だと自分でよくモテていたというものだから恥ずかしくなるものだ。そんな母はあたしたちを出産し、父と楽しい暮らしをしていたのです。

ボロやのアパートを借りて、サンタさんが楽しみな12月には大雪降って
楽しくてしょうがない子供時代をすごしてきたのです。

「ミコトちゃん！待ってよ！」
「ミキが遅いんだもん！」
ぷんつと怒った顔をしつつ姉でもあるミコトは後ろからついてくる妹：ミキにちらりと目を向けた。
ミキは涙目で、転んだり、見放したり・無視したりしたら今にでもなきそうな顔をしているのでミコトもそのミキの顔には正直イラットしていた。

自分が遊べない、というのがやはり自分が幼かったときの証拠で

感情任せだった自分。

自分が世界の中心だと馬鹿な考えのときもあった。

それは子供だからか、それは今だからきつといえるのだろう。

その時覚えていた記憶は、

プレゼントがアパートの近くにある駐輪所に新品な子供の自転車が2台、どちらも補助輪が付いている状態でそれは正直うれしかった。

それと、母親と父が帰ってくる前にお菓子を作ったり。

父親が帰ってきて、やっと夕食の時間だろう。

父の手にはケーキがあつて、振っていた雪が肩にかかっている

部屋に入ったときにはもう背中には雪が積もっていなくて…

抱いた父のぬくもりは、いまでも、それが幻だったとしても

それが父が幼い自分を抱いてくれたのだと信じていたい。

妹は、父のところへは近づかず、台所で料理を運んでいる母の足につかまっついて

あたしと父親がいる場所へとこなかった。

それでも妹は父よりも母にべったりだったのです。

そんな家族4人はまるでなかったかのような、事件が襲いました。あたしが覚えているのが妹の大声の声と母親と父親が聞こえてあたしはその事件が未だ記憶に残っていた。

いなくなった、うさぎのゲージ。

父親が母親との口論。

妹とあたしはベランダから隣のおばちゃんのところに行ったのを覚えていません。

……4人幸せだった家族が、消えていく瞬間だったのです。

崩壊の条件（後書き）

父親と母親の離婚。

その本当の真実を知ったのは18歳のころでした。
というと、1年前のあたしはこれをして
シヨックでした。

その続きは、また今度。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5525d/>

日常は条件だらけ。

2011年1月27日12時46分発行